

はじめに

「限界突破キャンプ」の2年目にあたり、今年度は文部科学省の委託事業（青少年の体験活動の推進「体験活動推進プロジェクト」）に採択されました。

青少年の体験活動の推進「体験活動推進プロジェクト」では、自己肯定感の向上に有効な体験活動について効果を検証することが求められています。そのため、体験活動推進プロジェクトの実施においては、①推進会議の開催 ②事業内容を工夫したモデル的な事業の実施 ③アンケート調査の実施の3点が示されています。

事業内容を工夫したモデル的な事業の実施として、「限界突破キャンプ」は、本年度以下のように工夫・改善しました。

- ・1年目は、特にステージを設けていませんでしたが、2年目は、各ステージのテーマを設け、テーマに沿ったねらいを参加者に提示しました。
- ・榛名山登山については、1年目は照り返しのきつい公道を歩く行程となり、熱中症が心配されましたので、2年目は、公道はバスを利用し登山道のみを歩くことにしました。
- ・1年目は、ボランティアを希望する学生が少なく、3名の学生が班付きリーダーとして関わりましたが、2年目は、ボランティア募集を早めることにより、班付きリーダーの他にキャンプ全体のサポートも含めて6名の学生が本事業に関わりました。

また、3年目を見据えて、2年目の今年度から、県立妙義青少年自然の家の職員に推進委員をお願いし、「限界突破キャンプ」を単年度事業として捉えるのではなく、本事業を3年間のストーリーとして考えることができました。

今後は、「2年目の課題」を最終年度につなげていきたいと思えます。

本報告書が、長期自然体験事業を実施する青少年教育施設の皆さんに少しでも活用していただけることと、青少年の体験活動の推進を助ける一助になることを願っています。

最後に本事業を推進する為に協力いただきました推進委員の皆様がこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

国立赤城青少年交流の家 所長 松村 純子

目次

はじめに

1. 限界突破キャンプ事業の推進

(1) 趣旨	01
(2) 実施概要	01
(3) 推進委員会の概要	02
①委員の構成	02
②委員会の日程と議事内容	02

2. 限界突破キャンプ事業の内容

(1) 日程	03
(2) プログラムデザイン	04
(3) 自己評価・相互評価・振り返り	05
(4) 安全管理・プログラム実施体制・持ち物装備	07
(5) 各ステージの内容	08
①【ファーストステージ】 出会いのステージ	08
②【セカンドステージ】 仲間作りのステージ	08
③【サードステージ】 挑戦のステージ	09
④【ファイナルステージ】 旅立ちのステージ	11

3. 調査結果

(1) 自己肯定感とやり抜く力の変容	12
(2) 参加児童の変容	13
(3) 援助規範意識・ボランティア活動継続動機および自由記述に関する結果および考察	15

4. 事後のアンケート結果

(1) 1か月後の参加者アンケート結果	16
(2) 1か月後の保護者アンケート結果	16

5. 成果と課題

(1) 成果	17
(2) 課題	17
(3) 推進委員より	18
(4) 事業担当・ボランティアより	19